

米ナスのカルテック施肥例

(10アール当り)

品種:くろわし。 露地栽培 (または雨よけ)

<p>地力作り (兼 元肥)</p>	<p>なるべく早く(定植1ヶ月前までに)、右記の4種の資材を同時に投入し、なるべく深く耕しておきます。</p> <p>※深耕して、通気性・保水性・保肥性にすぐれた深い地力を作り、深根をしっかり働かせます。</p>	<p>ラクト・パチルス 600g … 排水・通気・保肥性 堆厩肥 2～3トン (なるべく多く) 硫安 60kg (N成分: 12kg) 畑のカルシウム 60kg … 葉を厚く、花実多く</p> <p>※ベイナスは多肥(多チツソ)の作物ですが、状態に応じて追肥・液肥で調節するのが良く、元肥は全チツソ量の半量程度とします。元肥主体とする場合は 硫安 100kg、畑のカルシウム 100kgとします。 いずれでも、定植時のEC:0.2程で安定させます。 ※水田転作畑や砂地の畑で 堆肥が少なく、明らかに不足する場合のみ、硫酸カリ 20kgを追加。 ※土壤酸性は深層まで中和すること。作付け前の土壌pH:6.0～6.5。(栽培中:5.5～6.3)</p>
<p>(2月中旬 播種) (3月中旬 接木)</p> <p>育苗期</p>	<p>茎葉より根を強くし、徒長させず、硬くしまった苗作り。</p> <p>右記は育苗期の液剤使用の一例です。いずれも、葉上から、培土まで染み込むようにタップリと散布します。</p> <p>※灌水は やりすぎないように、早朝に行う。晴天の日中は灌水せず、また夕方は乾くように。 ※定植時には 苗の草丈:25cm以下、軸の太さ:1cm以上。</p>	<p>①接木前には、濃縮酵素液 (生長を進める)、カルテックCa液状 (充実させる) 各1000倍で5日ごとに交互散布。台木・穂木両方の軸を太くする。</p> <p>②接木4日して (活着後に)、濃縮酵素液 1000倍 その5日後に、カルテックCa液状 1000倍</p> <p>③(接木15日後) 鉢上げ後、濃縮酵素液 1000倍 日光にあて、外気に慣らす。</p> <p>④この間、カルテックCa液状、濃縮酵素液 を、各500倍で7日ごとに交互散布。</p> <p>⑤定植7日前に、カルテックCa液状 500倍で散布する。(…苗の充実) 以後、灌水を控える。</p>
<p>液剤による調節 (灌水・灌注) 葉面散布</p> <p>※もし液肥で追肥する場合は アミノ酸液 5リットル</p>	<p>(5月上旬 定植)</p> <p>定植時(ドブ漬け、予め植え穴に灌水、または定植後に灌水)</p> <p>定植時から1ヵ月間は、土を深層まで湿らせ、根を深く! (EC:0.2。効きすぎないこと)</p>	<p>濃縮酵素液 2(～5)リットル灌水(葉にかかるなら500倍)</p> <p>※根を張らせませす。 ※定植時の後は なるべく灌水せず、やや萎れても夕方回復する程度で、活着・生長させませす。 ※定植後 1ヵ月(支柱立て頃)まで、灌水回数は少なく、灌水量は多くすると 深層に根が張る。以後も同じ。 (カルテック栽培以外では 少量・多回数の灌水) 灌水の際に 適宜(半月ごとに)、濃縮酵素液 施用</p>
	<p>支柱立て後、花が多くなる前から [以降、7～15日ごと]</p> <p>着果数の増加期(疲れる前、遅れずに) [以降、半月ごと]</p>	<p>カルテックCa液状 500倍 葉面散布 (または灌水) ※花が弱い・灰色カビ頻発の場合 2～10リットル灌水。</p> <p>濃縮酵素液 2(～10)リットル 灌水(または葉面) ※果実を肥大させ、強い根の力で 草勢を維持し、波を無くす。</p>
<p>(6月～10月)</p> <p>追肥</p>	<p>通常は 収穫継続中、月1回 (状態によって適宜増減) ※収量が多い時は 両方を増量。 ※石灰窒素は絶対に使わない!</p>	<p>硫安 20kg (同時施用) 畑のカルシウム 20kg …花離れよく、過繁茂防止</p> <p>※土の深層まで、アチコチのpHを測定し、栽培中に畑土全体が pH:5.5以下の酸性にならないように適宜、畑のカルシウムを施用して下さい。《最重要!》 ※根が弱い場合は先ず濃縮酵素液</p>